令和５年度 嘉飯圏域定住自立圏共生ビジョン検討会議　議事録

■ 日時：令和５年８月 22 日（火）14 時から　　場所：飯塚市役所本庁５階　研修室

■ 出席委員：16 名（3 名欠席）

飯島委員、溢田委員、中茎委員、中村委員、岩橋委員、藤川委員、大田委員、前﨑委員、梅田委員、淺田委員、髙石委員、佐竹委員、皆越委員、髙畠委員、野上委員、和田委員

１　開会（進行：飯塚市　総合政策課長補佐）

２　議事（進行：溢田会長）

（１）連携事業の令和４年度実績及び第１次共生ビジョンの期間における成果等について

【説明】

連携事業番号①～③：医療部会長（飯塚市 健幸保健課長）より説明。

連携事業番号④～⑨：福祉部会長（飯塚市 高齢介護課長）より説明。

連携事業番号⑩：教育・文化部会長代理（飯塚市 生涯学習課長補佐）より説明。

連携事業番号⑪、⑫：産業振興部会長（飯塚市 産学振興担当主幹）より説明。

連携事業番号⑬（休止）、⑭：事務局（飯塚市 総合政策課長）より説明。

連携事業番号⑮、⑯：地域公共交通部会長（飯塚市 地域公共交通対策課長）より説明。

連携事業番号⑰～⑲：移住・定住部会長（飯塚市 総合政策課長）より説明。

連携事業番号⑳：消防・防災部会長（飯塚市 防災安全課長）より説明。

連携事業番号㉑：人材育成部会長（飯塚市 人事課長）より説明。

【委員からの意見、質疑応答の概要】

〇委員

病児保育に関する連携事業について、現在、圏域における病児保育施設の確保はどのような状況でしょうか。

〇福祉部会（飯塚市 保育課長）

現在は飯塚市内で２か所、確保しています。受け入れる病院側としては、そのための施設を整備しなければならないという問題があり、新規の確保は難しい面もあります。

〇委員

可能な限り、受入施設の拡大に努めていただきたいと思います。

〇委員

救急車を必要以上に呼ぶことが問題になっていますが、この圏域では救急車の適切な利用に関する相談窓口などがあるのでしょうか。

〇医療部会長（飯塚市 健幸保健課長）

救急車を呼ぶべきか迷うようなときに相談できるコールセンター（＃7119）があるほか、子どもの医療専門のコールセンター（＃8000）も設けています。この件について、９月以降に２市１町の広報誌等で周知する予定です。

〇委員

障がい者基幹相談支援センターの利用件数はコロナ禍の時期でも多いようですが、子育て支援センターの利用者数については、(コロナ禍による) 利用制限もあって目標値を下回っており、差異があるように見受けられます。利用の仕方に関する違いがあればお教えください。

○福祉部会（飯塚市 社会・障がい者福祉課長）
障がい者基幹相談支援センターは虐待防止センターの機能も兼ねているほか、障がい者に来所してもらうよりも出向いていくことが多く、電話による相談もあるので、これらを合計すると必然的に利用件数は多くなります。
○福祉部会（飯塚市 保育課長）
一方で子育て支援センターについては、令和２年・３年の緊急事態宣言下では完全閉所したほか、完全予約制にしたことや消毒時間を設けたことなどの制限があったため、令和４年度まではその影響があったと考えています。なお、令和５年４月からは制限を撤廃しているので、今年度は利用者数が増加するものと思われます。
○委員
障がい者の虐待については２市１町で運営する基幹相談支援センター（虐待防止センターを兼ねる）で対応することになっていますが、障がいのない人の虐待に関する相談については、どのように対応されているのでしょうか。
○福祉部会長（飯塚市 高齢介護課長）
子どもの虐待、高齢者の虐待について、それぞれの担当部署で相談を受け付けています。これらは（２市１町共同運営の機関ではなく）各自治体で対応しているところです。
○委員
西鉄バス碓井線の運行を維持するための補助金を２市１町で出していますが、この方法と、行政が独自にバスを運行させるのと、費用対効果の面でどちらのほうが良いのでしょうか。
○地域公共交通部会長（飯塚市 地域公共交通対策課長）
令和４年度の決算見込で約 1,030 万円の補助金を支出する形になっていますが、仮に西鉄バスの路線が廃止になって２市１町共同のコミュニティバスを運行する場合、この何倍もの経費がかかると見込まれるため、西鉄バスに対する赤字補填（補助金）という方法を採っているものです。
○委員
西鉄バス筑豊株式会社を代表して委員になっています。日頃より、バスの運行に対して行政や地域の皆様からご支援いただき、ありがとうございます。昨今の報道でもあるように、現在は燃料費の高騰や人件費のアップなどで経費が上昇しているほか、乗務員（運転手）不足の問題も発生しています。将来、運行したくても運転手がいないなどの事態に陥らないように、皆様のお知恵をお借りしながら持続可能なバスの運行に向けて頑張っていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。
○委員
産学官連携の促進に関する連携事業について、医療機器を開発する企業に対する補助金が支出の大きな部分を占めていますが、事業の成果指標としては交流イベントへの参加者数などが設定されています。事業内容に応じた成果指標となっていないように感じますが、いかがでしょうか。
○産業振興部会長（飯塚市 産学振興担当主幹）
飯塚市の第３期新産業振興ビジョンに基づき、飯塚研究開発機構と圏域の医療関係者、大学関係者で協力しながら医工学連携を進める中で設けた補助金の制度であり、ご指摘のとおり、金額としては非常に大きくなっています。なお、成果指標のうち「連携事業数」には医工学連携フォーラムや、それに関連する製品化促進事業の件数などが含まれており、事業内容を反映したものとなっています。
○委員
連携事業のうち「地域資源を生かした圏域活性化の促進」に関連してお尋ねします。田川市郡で

は「新・田川紀行」という冊子が発行されていますが、観光名所の写真などがたくさん掲載されていてわかりやすく、歴史的な情報も盛り込まれていて、ちょっと行ってみたいという気にさせられる内容になっていると感じます。嘉飯圏域でも、これまで蓄積してきた情報を一つにまとめてＰＲできるような何かを作れたらよいのではないでしょうか。

〇移住・定住部会長（飯塚市 総合政策課長）

連携事業「戦略的な広域観光の振興」の中で、２市１町の広域観光ルートのＰＲ動画を製作していることなどが、関連する取組になると考えます。今後、圏域への移住・定住を促進するためにも、様々な媒体を使った圏域全体の魅力発信に取り組みたいと思います。

〇委員

例えば飯塚市の観光に関する資料は、あいタウンの中（飯塚観光協会の事務所）で入手することができますが、実際は観光客の目に留まりにくい場所と思われます。また、各市町それぞれではパンフレットを駅などに置いてあるのかもしれませんが、圏域全体の観光情報を集約したものが容易に手に入らないので、一つの自治体だけでなく圏域をぐるりと回りたい来訪者には案内が難しい状況だと感じます。このような問題に対応できるような情報発信の方法について、何か検討されていればお教えください。

〇移住・定住部会長（飯塚市 総合政策課長）

ＰＲの強化についてはずっと検討していますが、ご指摘のように、まだ不十分な面があるものと受け止めています。パンフレット等の配架先を増やすことや、インターネットで情報を取得することが多いと考えられる若い人に対応した情報発信のあり方など、引き続き検討したいと思います。

〇委員

防災についてお尋ねします。圏域の避難所において、インターネットで円滑に情報を取得するためのモバイルルーターを整備してあるということですが、桂川町では３か所（住民センター、総合体育館、ひまわりの里）だけになっています。災害の規模が大きくなれば、避難所は３か所にとどまらないと思いますが、今後、そのような場合の対策も講じられるのでしょうか。

〇事務局（桂川町 企画財政課長）

資料に記載のある「３か所」については、持ち運び可能なモバイルルーターを整備している箇所数ですが、他の避難所となる施設についても、町として無線の Wi-Fi（ワイファイ）環境の整備を進めています。

（２）第２次共生ビジョンに基づく令和５年度からの新たな取組について

【説明】

事務局（飯塚市 総合政策課長）より、第２次嘉飯圏域定住自立圏共生ビジョンの中で新規の連携事業として位置付けられた「体育施設の相互利用」について、新たに設けられた作業部会（スポーツ振興部会）で２市１町の関係職員間の協議が開始されたことについて説明。（質疑なし）

（３）その他

【委員からの意見、質疑応答の概要】

〇委員

平成 30 年度に策定した第１次共生ビジョンにおいては、2020 年（令和 2 年）の圏域人口の目標値を 176,857 人としていたところ、第２次共生ビジョンに記載のある実績値は 174,715 人でした。約２千人、目標を下回ったことになりますが、これをどのように評価するのでしょうか。また、第

２次共生ビジョンのもとで実施する 21 の連携事業のうち 20 事業が第１次共生ビジョンからの継続で、１事業のみ入れ替わりということですが、５年後、このような形で人口の目標を達成できるのでしょうか。

〇事務局

少子高齢化が続くことを見込んだうえで人口に関する目標値を設定し、その達成に向けて２市１町の連携事業に取り組んできましたが、ご指摘のように目標値を下回る結果になっています。今後も少子高齢化の傾向は続くと考えられますが、この圏域の魅力を発信していきながら移住・定住につながる取組を５年間で進めていくことで、なんとか人口の目標値を達成できるように努めたいと考えています。

〇委員

人口減少についてはどうしても、(死亡者数が出生者数を上回る) 自然減で止め難いところがあります。その中で第２次共生ビジョンに「圏域の将来像」として記載のあるような圏域をめざすにあたり、今の行政サービスを維持していくことは大きな課題になると考えられますので、行政の効率化などを通じてサービスの水準を維持していただきたいと思います。

〇委員

このたび、新飯塚が「本当に住みやすい街大賞 2023　in 福岡」で第３位にランクインしたということで、輝かしいことと感じます。このランクインについて、どのような部分に魅力を感じてもらえた結果なのか調査することによって、今後、力を入れるべき取組の参考になるのではないでしょうか。この点について次回の会議で報告してもらえたら、また委員の皆様からいろいろなアイディアが出てくると思います。

３　閉会（飯塚市 行政経営部長挨拶）